



学校だより
ながや

令和3年度 第4号
令和3年 6月30日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

「ありがとう」の気持ち

副校長 菅原 明子

新年度が始まって3ヶ月。夏を思わせるような気温の日が多くなりましたが、子どもたちは元気いっぱい。校庭では、汗びっしょりとなりながら一生懸命活動している姿が見られます。また、各教室でも学級づくりとともに充実した学習活動が展開されています。

6年生は最高学年として、縦割り班のなかよし活動をはじめ、クラブ・委員会等ですっかり学校をリードしています。5年生は、米作りがスタートしました。個別支援学級は、収穫したジャガイモでお店を開き、教職員へ販売するところから学習を展開しています。4年生は、上郷体験学習に向けて準備に取り組んでいる真最中。3年生は、飼育しているカイコが繭を作り始めました。2年生は、連日まちたんけんに出かけ、自分たちの住んでいる「まち」について学んでいます。そして、1年生もすっかり永谷小の一員。4月の「1年生を迎える会」で「永谷小のお兄さんお姉さんのように『あいさつ名人』になってくださいね。」と呼びかけましたが、本当にあいさつがとても上手です。廊下ですれ違うときにも「こんにちは」としっかり顔を見てあいさつをすることができます。マスクをしていますが、一人ひとりの表情やしぐさは誇らしげで、こちらが自然と笑顔になります。

私が今年度着任して感じることは、永谷小は1年生に限らず、顔を見てしっかりあいさつをする子どもが多いことです。また、私が教室を回って嬉しく思うことは、とても自然に「ありがとう」の言葉を相手に伝えている姿にたくさん出会えることです。あいさつができるのは、家庭はもちろんのこと地域で育てられているからこそといえるのではないのでしょうか。あいさつができるということは、周りの人を信頼し、つながっていこうとする姿勢の表れともいえるからです。ですから、私は永谷小の子どもとあいさつを交わすとき、とても嬉しくなります。それと同時に「ありがとう」という気持ちになります。子どもに対しても、育ててくださっている多くの方々に対しても。

私たち人間は、成人して自立するまで時間がかかります。だからこそ、たくさんの人に支えられて生きていることに「ありがとう」の気持ちをもって成長していく「ながやの子」であってほしいと思います。そして、互いに関わり合いながら成長することのできる学校でありたいと思います。

教職員一同、「チームながや」として子どもたちの健やかな成長のため、「ありがとう」の気持ちを胸に教育活動に取り組んでまいります。ご支援ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。